

ホルムズ・インフレ

ホルムズ海峡の封鎖によって、日本は中東から原油の調達が厳しくなっています。特にプラスチックなどの原料となるナフサ等の暮らしを支える石油製品は、中東地域への依存度が高く、供給不安の高まりから、インフレへとつながる恐れも出始めました。実際、6月に入ってから食品を中心に1000品目の値上げが予定されている状況です。トランプ大統領の独り相撲で始まった感のある対イラン戦争も、全面的勝利を繰り返し主張していますが、実態との乖離（かいり）を指摘するアナリストも多いようです。加えて数日前には、米俳優のリチャード・ギア氏もトランプ氏を「偏執狂」と呼び、激しく批判しています。「…米国がこんな風になってしまうなんて、一体誰が想像したのだろうか.. 米政府と米国民の良いところほほすべてを解体してしまった..」と。



米国国民が選んだ選良ですので、他国の我々は軽々に評価できないのかもしれませんが、米国民の良識に触れた感じがいたしました。

さて、4月16日、28年間にわたり東根市長を務めた土田正剛氏（82）が逝去されました。昨年9月、同市に本社のあるアイジー工業の創業記念祝賀会でお見掛けし、久しぶりに挨拶を交わしたのが最後でした。…高校時代の陸上部で先輩に当たる同氏の「わが交遊録」が県内の新聞紙上で紹介された懐かしい思い出もありました。



『私は山形東高校在学中、3年間陸上部に在籍したが、2年生の時に、その後の私の入生で大きな転換点ともなる体験をした。その春、中学生の県陸上競技大会で優勝したという素晴らしい新人が入部してきた。ある日、彼と一緒に走ってみた所がその優勝記録が物語るように私は彼の走りに全く歯が立たなかった。私はひどくショックを受けて「ああ、もう陸上は辞めよう」と正直に思った。陸上部の先輩に「もう辞める」と話した所、「夏の合宿で一週間死ぬ気になってやってみろ。もし、それでもだめだということであれば、辞めてもらっていいから」と言われた。そこで先輩の言葉を信じて私は一週間の合宿で本当に死ぬ気になって倒れるくらいまで練習を重ねた。合宿を終えて3日くらい日を置き記録会が行われた。私はその1年生と再び一緒に1500メートルを走ったが、不思議な事に私は体がとても軽くて軽快に走ることができ、相手はどんどん遅れていく。最初、私はオーバーペースで走ってしまったのではないかと思ったくらいだった。最終的にその1年生を100メートルくらい離して私はゴールした。私はその記録会でものすごく自信を待った。それからの私は、その年秋の県大会で社会人を含めての県大会で第6位、翌年は第1位の成績を収めるに至った。あれから50年余りが過ぎた。その新入部員とは現在、山形市旅籠町に公認会計士として事務所を構える黒沼憲さんである... たまに会うと、「やあ先輩、僕のことをよく書いていますね」と言う。私も「そうだ、なせばなるという風な気持ちにさせてくれたのは君のおかげだから」と言って、今でもお付き合いさせて頂いている。』

土田先輩のご冥福を心よりお祈り申し上げます。